

●技術紹介

＜再繁茂させない！河道内樹木管理のテクニック＞

◆樹木管理は喫緊の課題

河川敷には様々な樹木が漂着・成長し樹林を形成します。かつては定期的な出水や地域社会による伐採利用等によって樹林化が抑制されていましたが、近年は治水対策の進展や社会構造の変化によって河道内樹林は放置され、河積阻害や流木等による被害を発生させています。

近年、緊急対策として河道内樹木の伐採が進められていますが、伐採した樹木が短期間に再繁茂することが大きな懸念となっています。



写真-1.流下能力を阻害する河道内樹

◆樹木の強い再生能力

樹木はその内部に栄養分をため込んでおり、多少のダメージを受けても容易に回復します。



写真-2.切ると増える法則



写真-3.巻き枯らしからも根性で復



写真-4.倒れてもただでは起きない

◆樹林の種類に応じた対策の検討

河道内樹林は主に下流域に多いヤナギ林、中流域に多いエノキ等の広葉樹林、上流域に多いハリエンジュ林などが代表的です。ヤナギは種子による再侵入、ハリエンジュは枝や地下茎から増える(種は発芽しない)など樹種によって、再生メカニズムが異なるため良く見極めて対策を行う必要があります。

◆最適な再生抑制対策を組み合わせた対応

各河川においては対象樹林の樹種、または立地条件、周辺植生、洪水外力等を整理したうえで、現地にあった最適な再繁茂対策の組み合わせで対応していくことが望まれます(図-1)。弊社では、様々な条件での伐採対策のモニタリング等を行った知見を活用し、最適な樹木再生抑制対策を提案することが可能です。

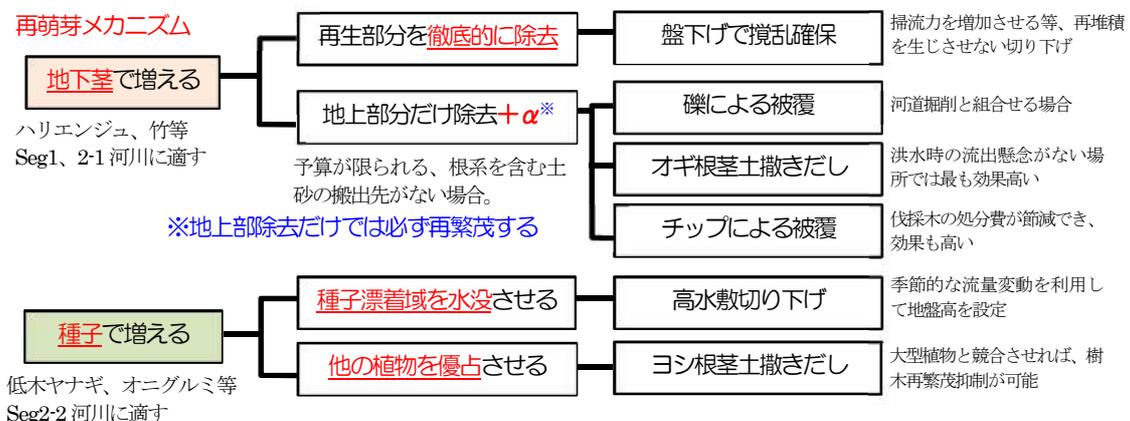


図-1.樹木再繁茂抑制対策の体系